

DCF(ドセタキセルとシスプラチンと5-FU併用) 療法

この治療では次の3種の治療薬を使用します。

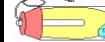
ドセタキセル：細胞のDNA複製を妨げ効果を現します。

シスプラチン：細胞のDNAや蛋白合成を妨げ効果を現します。5-FUの効果を強めます。

5-FU：細胞のDNAやRNAの合成を妨げ効果を現す。持続で注入することで効果が強まります。

＜投与スケジュール＞ ・・・ 4週間が1コース

今回 コース目

<薬品名> <投与方法・時間>	<薬の作用>	1コース目					2コース目
		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	...
輸液 <点滴静注90分>	腎障害予防	点滴	点滴	点滴	点滴	点滴	点滴
ゲラニセトロン注・デキサート注・ガスター注・ポラミン注 <点滴静注30分>	嘔気止め・アレギーの予防	点滴	休薬	休薬	休薬	休薬	点滴
タキソール(ドセタキセル) 生食250ml <点滴 1時間>	化学療法剤	点滴	休薬	休薬	休薬	休薬	点滴
マンニトール20% <点滴静注60分>	利尿剤、腎障害予防	点滴	休薬	休薬	休薬	休薬	点滴
シスプラチン注 生食250ml <点滴静注 60分>	化学療法剤	点滴	休薬	休薬	休薬	休薬	点滴
5-FU 輸液 <持続点滴 5日間>	化学療法剤	持続注入ポンプ 	休薬	休薬	休薬	休薬	持続注入ポンプ 
輸液 <点滴静注90分>	腎障害予防	点滴	休薬	休薬	休薬	休薬	点滴

＜薬剤投与日の注意＞

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなったりした場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出してください。
- ★ 薬剤の投与は、血液検査やその他必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の中でも、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

＜備考>



＜副作用＞

副作用と症状	発現時期、頻度	対策	メモ
白血球減少 発熱 風邪様症状	10～14日後	うがいや手洗い・休養を心がけて下さい。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。	
血小板減少 出血	—	けがや打ち身、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。	
貧血 倦怠感 息切れ	—	採血結果によっては、造血剤を使ったり、輸血をすることがあります。	
吐き気・嘔吐	約8割	我慢せずに吐き気止めを使用してください	
下痢・腹痛	約6割	水分摂取を心がけて下さい。下痢止めや整腸剤を使用してください。重度の場合は点滴をすることもあります。	
口内炎	4人に3人	うがい薬や塗り薬を使います。	
腎障害	—	水分摂取に心がけ、尿量を多くしてください	
間質性肺炎、肺障害	非常にまれ	空咳、息切れ、呼吸困難、発熱など。早期発見が大事。	
浮腫	10人に1人	ステロイド剤や利尿剤を使用することがあります。	
アレルギー症状 顔がほてる、息苦しい 胸が苦しい、発疹	開始直後 ～数日	あらかじめ3種の予防薬を使いますが、症状があればすぐに申し出て下さい。	
白質脳症	非常にまれ	口のもつれ、ふらつき、物忘れなど。早期発見が大事。	
その他：発熱、倦怠感、心障害、視力障害、脱毛、手足症候群など			

＜相互作用＞

- ★ 次の薬を併用するとドセタキセルの副作用が現れ易くなることがあります。他の薬、栄養食品などを使用する場合は相談してください。

アゾール系抗真菌剤(水虫の薬)、マクロライド系抗生物質、シクロスボリン(免疫抑制剤)、ミダゾラム(鎮静剤)など
- ★ 放射線療法と併用することができます。その場合はより口内炎やのどの粘膜障害がより強く現れます。うがい薬などを早めに使用し予防に努めてください。
- ★ ここにあげた副作用は、代表的なものです。必ずしもこれらの症状が現れるとは限りません。副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師・薬剤師・看護師に申し出て下さい。